

笛木 和雄 さんの逝去を悼む

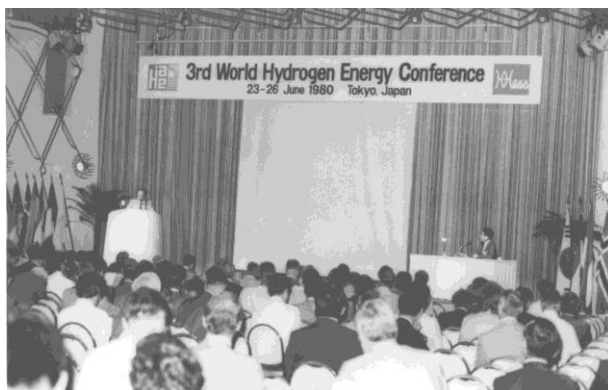
太田 時男

「超伝導コミュニケーション」の2月号で、笛木和雄さんが昨年12月27日、心筋梗塞で逝去されたことを知った。40年程のお付き合いで、悲しいの一言に尽きる。HBSS との関係を中心に追憶、追悼の言葉を送りたい。

1962年8月に押田勇雄、久田太郎、高橋秀俊、向坊隆、吹由徳雄などの先輩諸氏の指導で、「エネルギー変換懇話会」(DEC)を組織したが、これが母体となって1973年9月 HESS が誕生した。笛木さんとは DEC で向坊さんの紹介で知り合った。

1975年7月に茅先生のお勧めで「Key Technologies of Hydrogen Energy Systems」という日米セミナー(東京)を主催したが、笛木さんは参加を辞退されたのを覚えている。

1980年6月の第3回世界水素エネルギー会議(WHEC)には組織委員長に赤松秀雄、会議議長に太田が指名されたが、笛木さんは科学委員長として、極めて積極的に活動され、アブストラクト集を考案されたり、論文の厳選をされたりして見事な Proceedings を編集された。Hydrogen Energy Progress Volume 1,2,3 ; Ed. by Veziroglu Fueki Ohta (1980, Pergamon Press)である。上質のインディアンペーパーの仕様を提案、実施されたのも笛木さんであった。太田は、当時のソ連軍のアフガン侵攻に抗議する国際連盟と国の方針によって、WHEC へのソ連参加が禁制され、その対応で文部省や外務省との折衝に時間を取られていた。科学委員会は笛木さんが全てやってくれた。ソ連からやってきた8名ほどのミッションは成田で3日間待たされ、会議の終わる日に入国を許可された。外務省の巧妙なやり方に強い怒りを覚えたものである。



第三回世界水素エネルギー会議(1980)

Opening Address を司会する笛木教授(右端) 講演する太田
(朝日新藤社提供)

サンシャインや WE-NET の水素エネルギー分科会で長い間ご一緒したが、思い出として強く残るのは、1995年、カジマ映像が「水素エネルギーシステム」というビデオを製作するというので、笛木さんを誘って、二人で企画・演出したことであろう。笛木さんが Introduction を、私が Conclusion を語っている。なお、当時の国会議員の多くの方が、何かの会で、このビデオをご覧のことだと聞いた。

2002年には IAHE 幹部の Veziroglu, Winter、それに私も2回心筋梗塞でステントを挿入している。吉田邦夫さんもこの病で倒れ、快癒された由である。心筋梗塞で死に至るのは、運が悪い状況下でしかないと言える。だから笛木さんの逝去は悲しい。2004年の WHEC で、またご一緒したかった。

今は、旧制高校出身らしい品格と個性とを併せ持つ笛木さんのような学者は本当に少なくなった。まことに惜しい方を亡くした。ご冥福を祈る。

平成15年2月16日